

1, くらしの森にあるタケとササ

＊当地にはタケとササ合わせて20種類が現在わかっています。

（生物学、分類学的には全てカタカナで表記されます）

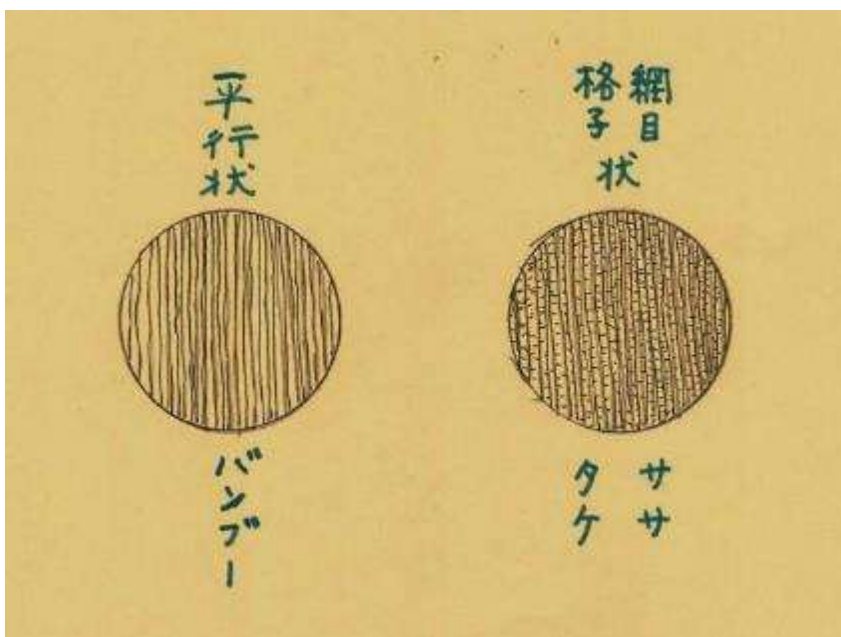
- ・1本で立つ単軸型タケ9種（モウソウチク ハチク クロチク マダケ ホテイチク トウチク スズコナリヒラ シホウチク オカメザサ）
- ・株立ちする連軸型・熱帯性タケ4種（スホウチク ホウオウチク ホウライチク ダイフクチク）・・・総称でバンブーと呼ぶ
- ・ササ7種（ネザサ アズマネザサ クマザサ ヤダケ ゴキダケ メダケ カンチク）

→成長すると皮が落ちるものをタケ、皮がずっと残るものをササと一応区別されていますが、
タケでも小さいオカメザサはササという名が付き、ササでも大きいもの 4 種にはタケという名がついてい
ますので、大きいものがタケ、小さいものがササと大別してもよいです。

→また葉にある葉脈をマイクロスコープで見ると、タケとササは格子網状を示し、熱帯産タケは縦の平行状
を示します。

☞よくネット上ではタケは格子網状、ササは平行状との記事があるので要注意です。

<葉脈を見てみよう>



2, 暮らしの森にはなぜこんなに多種類のタケがあるの？

→戦時中にこの一帯は陸軍の演習場として使われ、畑作と米作りが行われていました。食糧難から耕作に入る人もあり、戦後は公有地として禁止となりましたが不法に居続けた耕作者もありました。森づくりが始まったころにはようやく移転が完了しましたが、残っていた竹が次第に拡大したものと思われます。

<2004年 大坂池から東へ向かう道(今の里の道)にあった耕作地の様子 ↓ >



<2004年 スハウチク一帯の耕作地の様子 ↓ >



3,竹林整備が始まったころの様子…2004～2009年

<2004年 中道のトウチク西側の入口 中へ入れない竹藪だった ↓ >



<2004年 トウチクを中道から見たところ ↓ >



<2007年 スズコナリヒラでの作業を終えて ↓ >



4, この20年、竹林と木々の変化は？

<2004年と2022年、スズコナリヒラ林を中道から見る> 「森だより36号」より



<2024年スハウチク一帯を中道から見る ↓ > 高木化により竹が見えにくい



●この20年で竹は整備が進みました。竹の特性を知り、適切な管理法を学習していきましょう。

5, 竹の不思議な実態・・・

竹の種類は日本で約600種、世界で約1200種とも言われますが、未だに確定的ではないようです。また成長のスピードが速すぎるためか突然変異も多く生態も多様なのですが、2013年に竹くらぶ(当時の名前)として京都洛西竹林公園を見学した際に学んだことなどから列举してみます。

- ① たった100日未満で成長を完成し稈(かん)の長さ太さは一生変わらない
- ② すごい伸びっぷりで一日で最高121cm伸びた記録がある(上田)
- ③ タケノコの時代に一生の形が決まる 最初から節の位置も決まっている
- ④ 竹の維管束(いかんそく 断面にある黒点)には形成層がないため太くならない
- ⑤ 竹も紅葉し『竹の秋』という俳句の季語は春を指す 筍を出した後、葉が黄変し一気に葉替わりし新葉が開く時期がある
- ⑥ 地下茎で繁殖し一家族は一地下茎で繋がり、モウソウチクの地下茎の寿命は約10年
- ⑦ 竹も開花することがあるがオシベは3本系のように垂れ下がるが根元のメシベは見えず、開花後にできるタネはまさしくイネそのもので発芽能力はほぼ100%
- ⑧ 竹は日本庭園の代表とされているがルーツは熱帯産のバンブーで赤道周辺の暖かく湿った国に分布している 日本の竹は地球が熱くなった年代に北へ伸びたものが冷えた後も寒さに適応し進化したもので、現在では北海道稚内にもモウソウチクがある
- ⑨ アフリカと中国の雨の少ない地域には竹がない
- ⑩ エジソンの最初の電球は竹のフィラメントだった

- ⑪ 昔は鉄の代用に竹筋コンクリートが使われた
- ⑫ 外国の竹にはトゲだらけの竹(インドで泥棒除け)、実のなる梨竹(バングラディシュ)、乾季には真っ赤に枯れる竹(タイのパイ・ルアーク)等々不思議な竹がある
- ⑬ ベトナム戦争の枯葉作戦のあと、真っ先に蘇ったのは竹だった

~~~~~この講座全体の参考文献、人物~~~~~

- ・渡邊政俊「竹とともに生きた我が人生」非売品・・・2008年「ちくさ自然発見事業」の「竹勉強会」講師をきっかけに2009年東山の森へフィールド訪問(ハチク林)、2011年東星中学校へ「竹一株植えつけ運動」を実施しスハウチクを植樹、2012年「全国竹の大会(アイリス愛知)」などで当会と交流が続き、2013年の京都市洛西竹林公園へのバス研修につながるなど、竹林整備班の顧問的存在の方である
- ・上田弘一郎農学博士「竹と人生」明玄書房・・・渡邊氏の師でありミスターバンブーと呼ばれる
- ・内村悦三「タケ・ササ図鑑」創森社・・・竹文化振興協会理事、竹資源活用フォーラム会長など
- ・柏木治次 富士竹類植物園・(株)エコパレ代表・・・竹笹の同定をお願いする専門家である

~~~~~

●余白に関連写真 2 枚

<2009年ハチク林 南は明るい草地だった>



<竹の秋 2024年 ハンノキ湿地入口あたり>



●著者:中村民子 校訂:鬼頭洋子 レイアウト:守口幸一

(その2へ続く)